

議会広報広聴委員会記録

令和6年10月4日（金）

09時02分～11時21分

全 員 協 議 会 室

【出席者】 村武委員長、村木副委員長、
肥後委員、大谷委員、三浦委員、沖田委員、川上委員、上野委員、
西田委員、川神委員

【議長団】 笹田議長

【事務局】 下間局長、村山書記、小寺主任主事

議題

1 はまだ議会だよりVol. 75の編集について……………資料1

(1) 校正作業

ページ	担当委員	記事
1-5	三浦委員 沖田委員	表紙、ポイント、トピックス、 議案の賛否、令和5年度決算
6-9	上野委員 川上委員	個人一般質問（15名）
10-13	西田委員 川神委員	個人一般質問（3名）、一日議会速報 まるよみ、市民対談
14-16	肥後委員 大谷委員	委員会活動レポート、あとがきほか

(2) その他

2 第4回はまだ市民一日議会について……………資料2

(1) 開催前最終確認

(2) その他

3 主権者意識の醸成に関する活動について……………資料3

(1) 活動案について協議

(2) その他

4 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 02 分 開議]

○村武委員長

ただいまから議会広報広聴委員会を開会する。出席者8名、三浦委員と沖田委員は少し遅れるとの連絡が入っている。議題に移る。

1 はまだ議会だよりVol. 75の編集について

(1) 校正作業

○村武委員長

書記から説明をお願いします。

○村山書記

(以下、資料を基に説明)

○村武委員長

校正作業に入りたいが、それぞれ担当を決めているので皆すでにチェックされていると思うので、このまま続ける。1～5ページが三浦委員と沖田委員なので後回しにして、6ページの上野委員、川上委員から進めたい。

(以下、校正作業)

今後どういうスケジュールになるか。

○村山書記

本日事業所に修正したものを返し、来週8日火曜日に第2校が返ってくる。また、それを踏まえて翌日が最終調整になる。届き次第皆にLINE WORKSで伝える。期間が大変短くて申し訳ないが、翌日の午前中までに変更点があれば事務局まで連絡してもらいたい。

○村武委員長

では来週の火曜日に事務局から送られてくるので、必ず確認し、翌日9日の午前中までに何かあれば事務局へ連絡をお願いします。

(2) その他

○村武委員長

その他、何かあるか。

(「なし」という声あり)

1時間経過しているため、暫時休憩する。

[10 時 15 分 休憩]

[10 時 25 分 再開]

2 第4回はまだ市民一日議会について

(1) 開催前最終確認

○村武委員長

書記から説明をお願いします。

○村山書記

(以下、資料を基に説明)

○村武委員長

書記から説明してもらった。当日のタイムスケジュールなども確認いただき、何か意見があればお願いします。

(「なし」という声あり)

では、当日の当委員会委員の集合時間をもう一度お願いします。

○村山書記

議会広報広聴委員は13時集合予定としている。発言者は13時30分までにお集まりいただく。その他議員は13時40分集合となっている。

○村武委員長

当委員会委員は13時集合ということで、各係をよろしくお願いします。

(「なし」という声あり)

(2) その他

○村武委員長

第4回はまだ市民一日議会について、その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

3 主権者意識の醸成に関する活動について

(1) 活動案について協議

○村武委員長

皆からこの件について提案を募集したところ、資料3にあるように大谷委員、村木副委員長、私から案が出ている。各案について提案者から説明をお願いします。

○大谷委員

学校に出向いて医師確保を図る事業があるが、実際には引受け手がない状況で、学校に出向く形はなかなか厳しいのではという思いから、校内や地域への改善点や要望などがあれば児童会や生徒会でまとめて陳情のような形で出してもらうのも一つの手かと思って案を上げた。

○村木副委員長

企画名は「浜田市の政治に求められるもののダイヤモンドランキングを作ろう」である。ダイヤモンドランキングとは、カードを9枚用意してひし形に並べる。個人として大事なものが上に一つ、2番目が二つ、3番目が三つ、4番目がまた二つ、5番目が一つというようにランキングを付けてカードで遊ぶことで興味を持ってもらうとい

うものである。社会の先生をやっている知人と話す中で、こういうことをやると面白いという話題が出たので提案する。

想定は高校生だが、中学生でも大学生でもできるかと思う。人が集まった際に話す手法の一つである。ねらいとしては、ダイヤモンドランキングを作成するのに使うカードに、福祉、治安維持、防災などのカードを作ることからスタートするとより深まるかもしれないが、ここに時間を掛ける必要もないかもしれない。高校生と議員が対話を通して市政への理解や関心を高める。市政を自分事とする態度を養う。

生徒と議員がそれぞれダイヤモンドランキングを作成する。一緒のグループではなく別々のグループという想定である。そして作成したものを比較する。ランキングの理由や迷ったことについて意見交換する。お互いに深く聞いてみたいことについて対話した後、生徒は再度ランキングを作成し、意見が変わったところなどを聞いて新しい気付きや関心を深める。例えば、今はやはり最上位は治安維持、防災で、次の二つは教育と人権尊重か、三つ目は文化、産業、福祉というように、ゲーム感覚で意識を持ってもらう。さらに、今は対話重視らしいので、対話をしながらもし変容があればそのことについてお互いに意見し合う。主には語り合う手法として提案したい。

○村武委員長

私から提案したものを説明したい。まず出前講座である。小中高校生を対象に出前講座を実施してみたらどうかと考えた。これは学校に出向くわけだが、小中学校は授業の中に入れ込んでもらっても良いが、高校生は放課後を使って希望者を募っての出前講座もありかと思う。目的は議会についてより知ってもらいたい、そして議員を身近に感じることで議会への関心を高める。これを実施するに当たっては学校に向けてのお願いもあるが、議会側もどのように講座を進めるかという中身を検討していく必要があると思っている。

2点目、高校生との意見交換会の実施である。去年は中間支援組織ファンタスから声を掛けていただき、大学生との意見交換会を実施した。大学生視点の意見を聞けて、議員側としてもすごく良い会になったと思っている。大学生からも議員をより身近に感じたという声を聞いている。これを今回は高校生を対象に実施してみたい。もし実施が可能であれば、ファンタスにまた関わってもらったり、その中の大学生などにも関わっていただき、高校生がより意見を言いやすい環境を整えて実施してみたい。

3点目、議場見学の推進である。現在も議場見学を行っており、小学校から年間数校来てもらっているが、さらに多くの小中学校の児童生徒に議場見学へ来てもらえるよう、校長会等で周知したい。現在は小学校だけだが、これが中学校も可能なら来てもらいたい。それが高校生との意見交換への参加などにもつながる仕組みになったら良い。

4点目、子ども向けの広報だが、現在ホームページと冊子版がある。議場見学の際に冊子版も印刷してもらい、それを基に説明しているが、これが子どもたちにとって理解しやすい内容か、いま一度検討してみても良いと感じた。私からは以上である。

今、3人からの提案を聞いて、皆から意見や質問、ぜひやってみたいことがあれば

お願いする。

○川上委員

確かに必要かもしれないが、小中高大学生らは、議会がそこへ対してどうやって働き掛けるか、議会が働くことによってその人たちにどう影響するのかが見えてこないから誰も理解できないのだと思う。議会が執行部に対してどのように働いているかを見せないと、何も分からないと思う。執行部と議会がどのように動いているかを見せないとまずい、そういうことを少し考えたほうが良い。委員会などの傍聴でも良い。それが本当の主権者教育だと思う。意見交換をするのも良いが、そこには対立軸となる執行部がないから議会がどのような動きをしているかが見えてこない。

○村武委員長

まずは議会の役割などが理解できないといけないということか。

○川上委員

議会の役割はよく両輪と言われているが、それが間違いのもとだから良くないということを、まず分かるようにしていただきたい。お互いに協力し合うのは分かるが両輪ではない。それが見られる機会を作るべきだと思う。

○村武委員長

それを見る機会が議場見学、先ほど委員会見学と言われたが、そういった見学もあって良いかと思う。まずは議会の役割について、小中高大学生に知ってもらうためには出前講座や広報もしないといけないと思う。

先ほど私から高校生との意見交換会を提案したが、例えば高校生との意見交換会実施の前に、役割について少し学んでいただく時間などを作っても良い。

○沖田委員

大谷委員に聞いてみたいのだが、児童会・生徒会からの陳情をという企画は面白いと思う。ただ、子どもらに好き放題書いてもらったものをそのまま議会に上げるのか、やはり1回学校側を通じてやるのか、どちらを想定されているか。

○大谷委員

後者で想定している。教育の一環になるので、当然先生方の関与もお手数ではあるがしていただく必要がある。今、陳情の受け付け方について論議しているように、上げてもらうものについてはそれなりの書式、適格な内容で出していただくことも必要なので、そうした観点も学習していただくには、一個人よりは学校でまとめて段階を踏みながら上げてもらうスタンスでどうだろうか。

○村武委員長

大谷委員の案を進めていくために、当委員会としてどういったことを考えて進めるのか。必要な事柄があるか。

○大谷委員

基本的には、さほどない。こういうことは可能だと告知すればそれで良いと思っている。

○三浦委員

学生との接点づくりという皆の案は理解するが、そもそも主権者教育とはなにか。我々は子ども議連で子どもの権利の話などしているが、主権者であるという意識がない中に、議会の仕組みを伝えるだけでは議会への関心もなかなか持ってもらえないのではないかという思いを課題の一つとして持っている。主権者教育の推進を議会で行き組むとき、議会の仕組みを知らせることももちろん大事だと思うが、加えて、自分の暮らしているまちのことに興味を持ってもらったり、思いを伝えることができることを知ってもらったりすることを併せてやる必要があると思っている。どのやり方も工夫のある面白い案と見受けるが、アプローチの仕方を考えていくときにそういった部分も必要かと思う。議場見学をしてもらっただけでは多分あっさりした反応で終わる気がするので、前後に何かしら議員が話をする時間を持てないかなど、そういった部分も含めて考えると良い主権者教育に、また、生徒たちとの接点づくりにもなると思った。

○村武委員長

議場見学は現状どのように対応されているのか、事務局から聞かせてほしい。

○村山書記

ホームページで公開している「議会のおはなし」という小冊子を配り、正副議長から話をしてもらっている。

○村武委員長

実際対応されている正副議長は、どのような感想を持っておられるか。

○川神委員

正副議長どちらかが対応している。主に小学校の生徒が議場に入り、ある意味新鮮な感じを受けている。我々が気を付けているのは、難しい議会の仕組みではなく、議会とは何か、大まかな役割について話し、浜田で起こっていることがどのように決まっているのか、意見がきちんと反映されて皆でまちをつくるのだといったことをかみ砕いて話し、できるだけ子どもに関心を持ってもらっ話をするよう心掛けている。中には非常に関心を持って積極的な質問が出る場合もある。そういった雰囲気づくり、距離を縮められるようにしている。

○議長

小学校の受入れなどでは議場を利用して、皆の議員席に生徒を座らせて雰囲気味わってもらっ。事務局が作成した「議会のおはなし」という小冊子からかいつまんで説明し、質問等があれば受けている。質問をあらかじめ用意してこられる学校もある。執行部側の質問と議会側の質問はもちろん分けられてないため、執行部に向けた質問が我々に来るときもある。そのときに区分けについて説明し、理解してもらっこともある。

また、はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）のことも伝え、小学生の出席者の案が実現した事例を紹介しつつ、皆にも参加できることを強く言うように心掛けてる。来ていただけたらこういった形でやっているので、対応はできると思う。

○村武委員長

学校によって違うかもしれないが、議場見学をしてもらった後に例えば自分たちで、こういったまちになると良いといった意見を出してもらって話し合うといったことをしている学校もあるのではと思う。

○三浦委員

来た生徒は正副議長からそういう話を伺うので、情報に触れることができる。議場に来れば議場を見ることが出来る。しかし、来ない学校もあり、正副議長の話を聞いてないし議場も見えていない。また先ほど委員長が言われたように、持ち帰って話をしている学校もあれば、そうでない学校もある。学校ごとに対応が皆違っている。いろいろな段階がある中で、来てもらえばこういう話ができる、来てもらえなくてもこういう話をしに行くことができる。話を聞いた後に考えてみるのはどうだろうか、そういうときにこういうことができるという、段階的な接点の作り方があると思う。それを整理したとき、市民一日議会はどういう位置付けでの取組になっているのかなど、足りないところを一応整理して、こういうところが足りないからこのようにやってみようといった議論の整理も良いのではないかな。実態把握が曖昧なままになってしまうので、皆ができてないならどうすればできるようになるか、そういう場に議会として何か関われるのか、そういう考え方をしていくほうが具体論になるのではないかな。

○村武委員長

確かに議場見学などをされてない学校もあるし、議場見学後にどういうことをしているのかは学校によって違うと思う。聞いたところによると、学校で必ずこれをする決めていてわけではなく、対応される先生の思いや授業の組み立ての中でどうするかが決まっているのではないかなと思っている。議会としても状況の実態調査をしたり、持っていく方について考えたり整理したりすることも必要かなと思った。皆から、今までの話で何か感じたことや意見があればお願いします。

○川上委員

三浦委員の言うように、足りない部分を補うことは必要だと思う。市民には選ぶ権利と選んだ責任がある。それが見えてこないとなかなか難しいかなと考える。それが見える形にすることだと思う。おそらくそれが目的のはずである。

○村武委員長

川上委員が言われたことは分かるが、難しいところもあると思う。そのために一つずつできるところから考えている。ほかの方からも意見を聞かせてほしい。

○西田委員

議員側から働き掛けるのは大事なこともかもしれないが、三浦委員や川上委員の言われたことに私もかなり同調するところがある。皆一人一人が主権者だが、成長過程においていかに子どもたちが社会に出て、いろいろな課題解決、団体と協働や助け合いながら課題解決する力を養うこと、歯車としての自分を生かしていろいろなところで生き抜く力、この社会を生き抜く力を養うことが主権者教育である。そういう意味では、あまりこちらからいろいろな提案をして働き掛けることも大事かもしれないが、

その都度主権者たる若者を含めて、意識を醸成するために動くのだが、ある程度段階があるかと思う。大谷委員の提案も良いと思う。それぞれの案が悪くはない。若い人には若い人の都合がある。学校側の都合もある。議員側の都合もある。それがうまくマッチングするかどうかは課題の一つではないか。

○川上委員

もともとのスタートは文科省であり教育である。議会は教育機関ではない。

○村武委員長

議会は教育機関でないのはそのとおりだが、どのように推進するかを議会が考える必要はあるのではないかと思う。

○沖田委員

先ほど送られた「議会のおはなし」は子ども向けなのか。良くできているので地域井戸端会などで大人に配っても良い。それも立派な主権者教育の一環だと思う。教育と言うとかなり上から目線で怒られるが、議会というものを理解してもらうには、そういう小さいところから始めるのも方法の一つだと思う。ただ、もう少し内容を削って簡素化しても良いと思うがいかがか。

○村山書記

地域井戸端会で配付するなら、ルビを消してページ数を少し削減したものを出すのは良いと思う。

○村武委員長

沖田委員が言われたように、地域井戸端会での配布を今後検討しても良いと思う。

○肥後委員

第三中学校や水産高校などでは例年地域の人を呼んで話をする企画をやっていて、なるべく参加するようにしている。その際、市議会議員はどういったことをするのかと聞かれる。疑問をしっかり解消し、そこから興味を持つ人が増えていけば、それも立派な主権者教育になるかと思う。これだけ市議会議員がいるので、スケジュールが合う方はなるべく学校側が主催するイベントに参加するのも一つの手かと思う。

○村武委員長

水産高校からの案内は実際に今来ているかと思う。ここに書かれていること全てができるかどうかは分からないが、できるところからやっていけば良いと思っている。

○上野委員

沖田委員が言われたように、子どもにもっと分かりやすく興味を引くようなものを配ったら良い。また、親世代も含めて議会に関心を持つような何かがあれば良い。

○村武委員長

議場見学など来てもらえると、帰宅後に家庭内で話をしてもらうこともできるかと思う。

○川神委員

現在、特にこうすべき、こうあるべきということはないが、主権者は有権者に言い換えられる。年齢がどんどん下がってきているので、責任を持ってまちの運営に参

加していく意識を高めるのがすごく大事だと思う。入り口は何でも構わない。当委員会の中でどういう方法が最もふさわしいかを議論したい。あまり力を入れずに子どもとそういう話ができる環境をどう作るかといった議論はしていく必要がある。

いずれにせよ主権者教育とは小中高校のみならず、大人でも関心がない人はいる。できれば子どもだけでなく若手にも関心を持ってもらえる取組を、幅広くやる必要があると思う。

○大谷委員

来てくれる児童生徒に資料を通して話をしていくのは大切だと思う。ただ、出向いてとなるとなかなか厳しいかと思う。学校側は教科書を終えるだけで手一杯の状況の中、学校行事も限られたものしかやらないスタンスのようである。仮に出向くとなると詳細な提案資料を持っていかないと、学校側は検討素材に上げてくれないのではないかと思う。現状を踏まえながら持っていかないと少し厳しいという印象である。

○村木副委員長

まずは何のためにという、まちに興味を持つことの大切さだと思った。なぜ主権者意識を醸成しなければならないかとなると、暮らしなどにつながるのだと思う。それを小中高校と学校レベルもあれば、社会人レベルもある。

結論としてはやはり議会の視点としての見せ方。これはホームページの見せ方にもつながるかと思う。見せ方、伝え方を再度整理していかなければいけない。

また、今回提案するに当たって知人と話す中で、確かに新しいことはなかなか難しいが既存のイベントや学校行事に出向いたり、来て現場を見てもらうことも一つの手かと思った。

○村武委員長

皆近くの学校等に行かれることもあると思う。校長先生に現状を聞いていただきたい。例えば今回提案いただいた内容をやれば終わりということでもなく、主権者教育をどのように進めるか、子どもたちにどうなってほしいかも我々で考えないといけない。またこちらでも整理して今後進めていけたらと思う。

ただ、今回私から提案させてもらった議場見学の推進だが、校長会等で話をするとしているが、可能であれば11月の校長会で議場見学の勧奨が私からできたら良いと考えている。これは決して全学校強制ではなく、こういうこともやっているとお知らせしようかと思うがいかがか。

○大谷委員

そういう告知をすると大抵後から、移動手段はどういう扱い、費用負担はしてもらえるか、バスを借り上げたら出してもらえるかといった質問が来ると予想される。その辺も踏まえておいたほうが良い。

○村武委員長

現状としては各学校で移動手段などは考えてもらう。

○川上委員

大谷委員の言われたとおりである。案内しても手段などに関して必ず対応しなけ

ればならない。安易に案内するのではなく議会から教育委員会に対して、こういう場合はどうされるかなど話したほうが良い。それでなくても市は教育に予算付けしていないのだから、もっと考えたほうが良い。

○村武委員長

現状で議場見学に来てもらっている学校はおそらく年間計画としてきちんと考えて来られているのだと思う。議会から見学会の案内を校長会等で周知するだけでも、そういうことはどうなるのかと言われるのであれば、簡単に言えないということか。校長会等で言わないほうが良いということか。

○川上委員

校長会の指導をしている方がおられるので、1回確認してほしい。

○村武委員長

学校の現状も伺ってから進めていけたらと思う。教育委員会とも相談したい。今日このように皆から主権者意識の醸成について意見をいただいた。いただいた意見を正副委員長で少し整理し、今後やっていかないといけないことを再度考えて皆に提案していきたい。

○西田委員

あくまで委員会の事業として主権者意識醸成をしようというこちらの熱い思いは理解するが、子どもや若者の現場とのバランスがどこまで取れるかである。子どもたちもばらばらで地域によっても全然違う。三階小学校のように議場見学を積極的にされる学校もあるが、ほかの学校とどれだけ差が出てくるかも分からない。

私から見れば、普段から日常的に町内会、自治会、まちづくりセンターは子どもたちと一緒に地域に関わる企画をたくさんやっている。そこに子どもたちが積極的に参加している地域は、やはり将来、自分たちの地域課題は自分で解決していこうという意識が芽生えていた。大人が地域に関わる姿を子どもたちがしっかり見て、それを毎年繰り返して、一緒になってまちを盛り上げている意識が主権者意識の醸成につながる。そういう子どもに議会について説明すれば、将来政治家を目指すかもしれない。しかし普段地域と何も関わっていない子どもたちを引っ張り上げて、悪いことではないがなかなか結び付かないと個人的に思う。

○村武委員長

確かに言われるとおりだと思う。地域内で子どもたちの意見を聞いて進めていくのは大切だと思うが、それができているところとできてないところがある。そこに向けて当委員会が何かすることはできないが、地域内で盛り上げていくことは委員会とは別のところで我々もやっていかないといけない。そこから議会のことを知ってもらったり、自分の意見を議会に向けて言える社会を目指して進めていこうと考えている。できることを整理して考えていきたい。

○議長

今回主権者教育が始まったので私から話をしたい。これは全国議長会でも推進されている。令和5年4月に地方自治法が改正され、地方議会の役割、議員の職務が明確

化された。投票率の低下や議員のなり手不足、また先ほど言われた自治会や町内会への加入率低下も今は問題になっている。そういった意味でも主権者教育をしっかりと推進していき、まちづくりに興味を持ってもらおうということで議長会で推進している。

前回9月13日の委員会の最後で、地方議員が進める主権者教育の事例集というのがあるのを皆読まれたと思う。この中に我々がやっていることも含まれている。議長会を代表して出ている者として、推進していかなければいけない思いで話を聞いている。その辺も含めて取り組んでいきたい。

○村武委員長

議会としてできることがあると思うので、そこを我々が考えていきたい。では主権者教育についてはこちらで整理して、また皆と検討していきたい。

(2) その他

○村武委員長

主権者意識の醸成に関する活動について、その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

4 その他

○村武委員長

そのほか、何かあるか。

(「なし」という声あり)

では、以上で議会広報広聴委員会を終了する。

[11 時 21 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 村武 まゆみ